

農・工のものづくり回廊を支える 浜松三ヶ日・豊橋道路

vol. 2

第 2 号発行によせて

浜松三ヶ日・豊橋道路建設促進期成同盟会 会長
豊橋商工会議所 会頭 吉川一弘

平成 22 年 11 月に前任の磯村直英から当同盟会の会長という重責を引き継ぎました豊橋商工会議所会頭の吉川一弘と申します。三遠南部地域発展のため、浜松三ヶ日・豊橋道路実現のために粉骨砕身取り組んでまいりたいと存じますので、皆様のご指導ご支援をよろしくお願い申し上げます。



さて、三遠南部地域を取り巻く環境は、当同盟会設立時の平成 20 年と比べて大きく変化しております。新東名高速道路や名豊道路（国道 23 号バイパス）の整備建設は大きく前進し、農商工連携や医工連携の動きが三遠南信地域内で活発化しております。

こうしたことから、三遠南部地域においては産業振興、市民生活の充実が期待されますが、一方、一層の産業基盤の有機的結合と快適で安全安心な地域づくりのために幹線道路ネットワークの整備が急務であります。東西軸整備の進捗により、南北軸の要となる浜松三ヶ日・豊橋道路整備の重要性が高まっております。

地域の官民が一丸となって、浜松三ヶ日・豊橋道路の建設が実現するよう、力強く関係機関に要望してまいりたいと存じます。

同盟会ホームページを開設しました

<http://www.toyohashi-cci.or.jp/mikkabi/index.html>

農・工のものづくり回廊を支える

浜松三ヶ日・豊橋道路建設促進期成同盟会

これまで私どもが訴えて参りました浜松三ヶ日・豊橋道路の必要性を分かりやすくまとめた同盟会ホームページを開設しました。今後は、広く国や県をはじめ関係行政機関や事業所、周辺住民の皆様へ、浜松三ヶ日・豊橋道路及び同盟会活動について、適時情報を発信してまいります。

ホームページでは地域の産業や文化の紹介など 10 項目にわたり、道路の必要性を訴えるだけにとどまらず、抱える課題、その解決のための提案を紹介しています。

浜松三ヶ日・豊橋道路(仮称)の早期実現!!

浜松三ヶ日・豊橋道路(仮称)とは?

東名・新東名、国道一号、名豊道路(国道23号バイパス)の東西軸を南北に連結し、かつ、沿岸地域から中山間部への連携を強化するため、三遠南信自動車道と名豊道路(国道23号バイパス)を接続する南北方向の道路です。

路線の通過が想定される市町は、浜松、浜西、豊橋ですが、ルートについては未定となっております。三遠南信自動車道や名豊道路の開通の目途が概ね明らかになってきており、浜松三ヶ日・豊橋道路の整備による縦軸の整備がネットワーク形成に大きな意義を持ちます。

浜松三ヶ日・豊橋道路の必要性

【防災・救急医療編】

三遠南部地域の高次救急医療施設は、浜松市と豊橋市に設置されています。このため、浜名湖西部の湖西市から豊橋市東部地域など県境地域、田原市西部など3次医療施設への30分到達圏域に含まれない地域があり、救急の救命率向上を図るため、アクセスの改善が求められています。

また、当地域は、東海地震の地震防災対策強化地域、東南海・南海地震防災対策推進地域に指定されており、大規模災害に対する備えが大変重要です。近年では、三遠南信地域内に災害が発生した際に、各都市相互の応援による応急措置等が円滑に遂行されるよう、「三遠南信災害時相互応援協定」を締結するなど、災害発生時における職員の派遣や物資の提供等で協力できる広域防災体制づくりが進められています。

このため、県境を越える道路については、(1)路線数が少なく代替路がないうえに、(2)安定した走行を可能とする安全な広域幹線道路が少ないことが問題視されており、(3)災害時や救急搬送時の拠点となる

【3次医療機関へのアクセス時間】 ※資料1



【三遠南信災害時相互応援協定】 ※資料2

活動主体	協力自治体	主な内容
豊橋市消防本部	三遠南信32市町村	職員の派遣、医療品、食料生活必需品等の物資の提供
豊川市消防本部	東三河、静岡県遠州、長野県南信州各市町村	三遠南信地域内に災害が発生したとき、各都市相互の応援による応急措置等を円滑に遂行
田原市消防本部	豊橋市はじめ33市町村	職員の派遣、資機材及び物資の提供等
湖西市	三遠南信地域のすべての自治体	被災者の救出・救護、資機材の提供、被災者の一時受入れ等

豊橋市や浜松市、高速インターとの連携強化や、(4)広域的に連携する防災体制を支援する交通ネットワークの構築、(5)災害時のリダンダンシー（冗長性、余剰の多さ）を確保することが課題となっています。

これらの課題を解決することで、沿岸部の幹線道路への過度な依存を解消し、迅速で負傷者にやさしい救急搬送など、誰もが安心・安全で快適に暮らせる地域づくりを支えることが可能となります。

※資料1、2とも、「平成20・22年度三遠地域連携支援調査」報告会配布資料(愛知県道路建設課作成)から抜粋

「防災からみた浜松三ヶ日・豊橋道路」 豊橋市消防本部



【全国緊急消防援助隊合同訓練に参加する消防車両】

へのアクセスルートを構築することになり、広域的な応援を円滑かつ効率的に受け入れることができ、災害対応にとって重要な道路となります。

本市においては、県境を越えた広域的な応援体制として愛知県、静岡県、長野県の隣接する東三河・遠州・南信州地域の市町村が三遠南信災害時相互応援協定を締結しており、大規模な災害の発生時には、救出・救護や応急復旧等に必要な職員の派遣、資機材や食料などの緊急物資の提供など相互応援をすることになっております。

浜松三ヶ日・豊橋道路により東名・新東名だけでなく三遠南信自動車道が結ばれることは、多数の豊橋市

三遠地域連携支援調査報告会 ～将来の新連携軸を提案へ

昨年11月30日(火)、豊橋市役所で三遠地域連携支援調査報告会(浜松三ヶ日・豊橋道路建設促進期成同盟会主催)を開催し、関係者ら約130人が出席した。

同調査は、平成20年度から国土交通省の補助を受け、愛知県、静岡県、浜松市が取り組んでいる。①三遠地域の県境を越えた連携・交流の実態把握と将来動向の推計、②現況及び将来を見据えた地域整備上の課題抽出・整理、③課題に対応した対策案について幹線道路ネットワーク等を用いた検証を目的とし、必要性・緊急性などをとりまとめた新たな連携軸を提案したい考え。



平成20・21年度の調査では、県境を越えた連携の実態と将来像、その課題について整理をした上で、三遠地域内の企業、団体を対象にアンケート・ヒアリングにより地域連携の課題の抽出・再整理を行ってきた。

2年間の調査の結果、現況における地域連携の課題として、工業・農業の発展による物流の増加と、観光客や県境を越えた人の流れの増大による交通混雑の改善に加え、災害時の移動や救急搬送等を支援できる道路ネットワークの確保が挙げられた。

【現況における地域連携の課題】

課題①：県境を越えて広がる物流や人の流れの支援

- ◆県境を越える流動や域外との流動等、増加する交通への対応
- ◆工業・農業集積地、港湾と高速インターとのアクセス改善
- ◆地域経済活動の基軸となる東西方向の混雑改善
- ◆産業交通と生活交通の分離できるネットワーク形成

課題②：観光周遊性の向上による観光交流客数の増大

- ◆観光地と高速インターとのアクセス改善
- ◆愛知県と静岡県の県境を越えた観光地間の周遊性の向上
- ◆市街地や観光時の渋滞改善による円滑な観光交通の確保
- ◆南信地域や伊勢地域など他県の恵まれた観光資源との連携向上

課題③：災害時の移動や救急搬送等を支援できる道路ネットワークの確保

- ◆災害時や救急搬送時の拠点となる豊橋市や浜松市、高速インターとの連携強化
- ◆沿岸部の幹線道路への過度な依存の解消、及び災害時におけるリダンダンシーの確保
- ◆広域防災体制を支える安全な広域幹線道路の確保
- ◆救急搬送時の負傷者にやさしい幹線道路の確保

【地域のニーズ(将来整備方向)】

課題①：持続的で国際競争力のある“ものづくり”の拠点づくりの支援

- ◆三遠地域内の広域的な物流拠点である三河港や産業拠点間の連携による物流ネットワークの形成
- ◆中部国際空港、富士山静岡空港、御前崎港など、三遠地域外の国際的な交通拠点等との連携強化
- ◆リダンダンシーの充実した交通ネットワークの確保

課題②：地域資源の活用による新たな観光交流の促進支援

- ◆三遠地域や周辺エリアと連携した広域的な国際観光ルートの形成
- ◆産業観光、農業体験等の新たな観光スタイルの確立・拠点化と、現在の観光地を含めた観光ネットワークの形成
- ◆観光地へのアクセス、及び観光地間を短時間で移動できる周遊性・回遊性に優れた幹線ネットワークの充実

課題③：誰もが「安心・安全」で快適に暮らせる地域づくりの支援

- ◆広域的に連携する防災体制を支援する交通ネットワークの構築、災害時のリダンダンシーの確保
- ◆都市圏・都市内の幹線ネットワークの充実
- ◆医療分野における県境を越える連携支援

今後、平成24年度までの2年間で、将来の新たな交通需要や地域外からの新たな交通需要を織り込んだ幹線道路ネットワークの検証と、対応策の整備効果等を検証する。これにより、①持続的で国際競争力のある“ものづくり”の拠点づくりの支援、②地域資源の活用による新たな観光交流の促進支援、③誰もが「安心・安全」で快適に暮らせる地域づくりの支援を実現できる新たな連携軸の方向性を提案していく。

愛知県道路建設課からの報告終了後に設けられた質疑応答に移ると、「新東名高速道路や名豊道路の東西軸の整備が進捗しており、それに伴い南北軸整備の重要性が増してくると考えられるが、今後の課題や懸案事項は何か」、「三ヶ日 JCT から名豊道路を結ぶ道路ができて、初めて、幹線道路のネットワーク化ができる」などの意見や質問が出され、出席者の関心の高さが感じられた。

浜松三ヶ日・豊橋道路 沿線地域の紹介

浜松市→湖西市→豊橋市→**田原市**

「うるおいと活力のあるガーデンシティ」をめざして

田原市は、愛知県の南端に位置し、北は風光明媚な三河湾、南は勇壮な太平洋、西は伊勢志摩を臨む伊勢湾と三方を海に囲まれた渥美半島のほぼ全域が市域となっています。海岸延長は約100kmに及び、唯一東側を陸続きに豊橋市と接しています。

面積は188.81km²、人口は6万6千人で、田原町、赤羽根町、渥美町が合併し新生田原市が誕生して5周年を迎えました。海と緑に囲まれた渥美半島で「うるおいと活力のあるガーデンシティ」の実現を目指しています。

農業・工業・観光の紹介

温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、ブロッコリーやキャベツなど農業産出額は全国でも上位を誇



り、露地栽培のほかにも施設園芸、畜産と農業の種別も多様で、東名高速道路などの道路網を活用し、全国有数の農業産地を形成しています。

また、市の北東部に位置する臨海工業地帯は、トヨタ自動車(株)をはじめ東京製鉄(株)など多くの優



良企業の操業に加えて、更に120haの販売可能な工業用地が確保されており、道路や緑地などのインフラ整備も進められていることから、今後も生産と流通の拠点としての発展が期待されています。

観光資源も豊富で、三河湾国立公園に指定されている美しい恋路ヶ浜や日出の石門、全国から大勢のサーファーが波を求めて訪れる太平洋ロングビーチ、季節の花々とともに歴史的文化が薫る田原城址や城下町、田原市を一望できる蔵王山など、自然と融合した観光スポットが目白押しです。

浜松三ヶ日・豊橋道路への期待

田原市に近接する東名高速道路や新東名高速道路、国道1号、名豊道路(23号バイパス)に接続する『浜松三ヶ日・豊橋道路』の実現は、工業製品、新鮮な農産物などの流通の利便性の向上や人・情報の行き来が活発になることによる地域間のネットワークの拡大など、田原市の今後の発展にとって大変重要な役割を果たすのでありますので、早期の事業着手を切望しております。

★ 文中に掲載している風景の画像は田原市ホームページからダウンロードすることができます。<http://www.city.tahara.aichi.jp/>

浜松三ヶ日・豊橋道路建設促進期成同盟会

浜松市・豊橋市・田原市・湖西市

浜松商工会議所・豊橋商工会議所

湖西市商工会・田原市商工会・新居町商工会・奥浜名湖商工会・浜名商工会・渥美商工会

とぴあ浜松農業協同組合・豊橋農業協同組合・三ヶ日町農業協同組合・愛知みなみ農業協同組合

事務局：豊橋商工会議所

〒440-8508 愛知県豊橋市花田町石塚 42-1

TEL 0532-53-7211 FAX 0532-53-7210